

ヨシナカ新聞

10月号
発行所
株式会社ヨシナカ
東京営業所
TEL:03-3555-0796

三百年以上続く祭り

弊社富山工場がある富山県高岡市福岡町では、『つくりもんまつり』というお祭りが秋に行われており、今年も9月23日と24日に行われました。写真は北日本新聞の記事です。

「地蔵まつり」（地蔵盆）に供えられていた秋の収穫物が、長い歳月を経ることで、「つくりもん」へと姿を変えたのがこのお祭りの始まりとされているそうです。秋の収穫を祝い、五穀豊穣に感謝する『つくりもんまつり』は、三百年以上の歴史があるそうです。三百年前は、江戸時代中期。八代将軍徳川吉宗が享保の改革（幕府の財政再建の為、新田開発や倭約、また法令の整備や訴訟の



円滑化をはかった改革

を行った年です。大変歴史あるお祭りです。住民らにより、季節の野菜や果物、自然の草花などを利用して緻密な手作業により製作される趣向を凝らした作品は、大作から小品まで、その年の話題や行事をテーマに時代性を映し、素材でユーモラスな庶民芸術として親しまれています（北日本新聞記事より）。

過去の出演作品ではサザエさん一家も登場しており、とても興味深く、機会があれば是非一度行ってみたいと思っています。

K社員のエレクトーン奮闘記

右足でポリウムを調節するペダルの右横についているペダルを蹴ることによってパターンを変更する設定にした『エデンの東』、慣れないながら、先生の適格な指導もあって、なんとか発表会に間に合いました。前の『新日本紀行』の練習量よりかなり少なく、不安を抱えたまま発表会を迎えました。

順番が来て、エレクトーンにUSBメモリーを差し込んで設定、演奏を始めた途端、とんでもない現象が発生した。足が震える・・・『新日本紀行』では音量は一定だったのが、今回はペダルを踏み込む程度によって音量を調節するのが、本番では緊張で足が震えてしまい、それを止めようとすると余計に震えてしまう現象に陥ってしまったのでした。

ステンレス豆知識

表面研磨後の不動態被膜

ステンレス鋼表面に形成される不動態被膜は、厚さが0.03nm(ナノニウム(10万分の3nm))程度の含水Cr酸化物で、柔軟性に富み、すばやい自己補修作用(数十分の1秒以下で被膜が修復)を有す理想的な表面被膜です。従って、表面研磨で不動態被膜が一瞬間除去されても、すぐに修復されているため、表面研磨が腐食損傷原因になることはありません。

ただし、環境条件として水および酸素が材料条件として母材に対して13w%以上のCrが必要になりますので、それらが十分存在しない環境条件下(隙間内部)や材料条件下では不動態被膜が形成されにくく、その地点が腐食しやすくなります。アルミサッシや塗装鋼では、化成処理皮膜や塗膜を一度傷付けると、下地が露出し、その地点から腐食が始まりますが、ステンレス鋼はその点は問題ありません。

以上より、ステンレス鋼は表面研磨等で不動態被膜が除去されることはありませんが、激しい研磨によって著しく発熱したり、下地金属が変質(加工誘起マルテンサイト相や鋭敏化組織が生成)した場合は、下地金属の耐食性が多少変化することもあります。参考資料：事例で探すステンレス(工業調査会)

外国人が不思議に思う日本人の日常

ここ数年、日本を訪れる外国人が増えています。そして、日本の文化や、清潔さ、日本人の礼儀正しさを称賛する一方で、日本人の日常に驚いている面もあります。ここでは、外国人が不思議に思う日本人の日常をいくつか取り上げてみたいと思います。

■電車が数分遅れただけで大問題

どれだけ精密なんだろうと同時に、そのくらいでなぜ人が文句を言い、

駅員が謝罪しているのかが理解不能なのだそうです。

■自動販売機の数

海外であれば一瞬で販売機ゴト盗まれてしまうか破壊されて中身を奪われてしまいます。さらに飲み物だけでなく、食べ物やおもちゃ、本や衣服まで揃っている自動販売機。アルコールが買えることに衝撃を覚える外国人も多いそうです。

■どこでも居眠りする

日本のサラリーマンはどこでも寝れる居眠りのプロだと思われているよ

うです。電車やバス、さらにはデスクの上でも。偉くなればなるほど激務に追われる日本では、居眠りをするほど疲れていることがまるで「勲章」のように扱われていると海外では話されているそうです。

■ヌードルを音をたててすす

欧米では基本的に食事中に音を立てないのがマナー。しかし日本ではそばをすする文化。海外の人々は日本ではラーメンや蕎麦を食べる際にズルズルと音を出して食べることが非常に重要だと思われるようです。